第4部「表現力を試す問題」の採点基準

【1】採点基準

出題意図

小樽市の公衆浴場を舞台に実際にあった事件を題材として、問題点の把握力に加え、「意見書」という形での表現力・文章構成力を試す問題である。この題材については札幌地判平成14年11月11日（平成13年（ワ）第206号損害賠償等請求事件）として判決も下されている。

解答に当たっては、問題文の後ろに示された論点を選択して論及することが求められている。入浴拒否に反対する論拠としては、外国人のみならず外国系の日本人に対する差別であること、国際交流の方向に逆行すること、ひいては地域振興にマイナス要因となることが示されている。

反対に入浴拒否を容認する論拠としては、浴場に対する実際の被害、言葉が通じない等の理由から指導が困難なこと、日本人客への迷惑とその客離れのおそれ、入浴マナーを守らない者に対して経営者が客を選ぶ権利などが示されている。

容認・反対のいずれの立場をとるにしても、これらの情報を考慮に入れて、自己の立場に対立する論拠に対しては適切な反論を加えた上で説得力ある意見書を作成することが求められる。

なお、問題文に示された論点以外の論点や独自の見方を付け加えることは禁止されておらず、意見書の説得力を補強する点で有効であれば加点することも考えられる。ただし法律論を展開しているもの、上記判決その他外国人差別に関する裁判例や憲法、国際人権規約、民法90条の解釈論などに言及している答案は、法的知識を問うものではないという適性試験の趣旨に鑑み、評価されない旨が問題に明記されており、特に法学の知識だけが有利にならないよう配慮を加える必要がある。

採点（100点満点）

結論の明示…… **10点**

結論が明示されていないものは、この項目のみならず、下記の項目でも不利となる。

論点への言及 …… **20点**

以下の論点のうち、Ａ群とＢ群のそれぞれから少なくとも３点以上指摘してそれぞれについて適切に説明していること。論点が６つあれば満点、５つあれば18点、４つあれば15点という機械的な評価を一応するが、言葉として挙げられていても論旨と結びついていないのであれば、低い評価になる。論点を７つ以上あげている答案は、次の説得力の評価の箇所でプラスとなったり、逆に説得力に結びつかないでマイナスの評価が下されるものとし、この項目では加点しない。なお、独創性ある論点の提示は評価の対象となるが、独自の論点にこだわって触れるべき論点をないがしろにしている答案は、低い評価にとどめる。

（A群）

・外国人差別
・民族差別
・国際交流への障害
・地域振興への障害
・その他入浴拒否に反対する論拠

（B群）

・浴場の被害予防の必要
・コミュニケーションの困難性
・公衆浴場の客離れ
・日本人客に対する配慮の必要
・客を選ぶ自由
・その他入浴拒否に賛成する論拠

各論点への言及と結論との整合性 …… 40点

自己の取り上げた論点について、選択した結論と整合するように評価がなされ、自説の結論に反対の論拠については適切な反論がなされていること。表現力を見る上で核となる項目であり、提示された論点と結論とが有機的に結びついているかといった論理展開を見ていく。例えば国際交流という論点にふれる場合、A市のこれまでの国際交流の取り組みと地域振興との結びつきに言及して自己の結論を積極的に補強する材料として提示するなどの答案に高い評価を与える。

結論と論拠が整合的に結びついていることは、同時に説得力の源でもあるので、下記の説得力の評価にも関連してくる。

問題提起から結論までの論理展開 …… 10点

一般的な４部構成では、問題提起→結論支持のための論拠説明→反対論拠とその批判→結論ということになる。結論を冒頭に示して、以後に結論支持のための論拠説明→反対論拠とその批判という構成も考えられる。その他の構成でもよいが、論理的な展開が示されていることが必要であり、論点を無目的に羅列しているものは評価が低くなる。

説得力 …… 20点

結論への説得力を総合的に見て、採点者の受けた全体的な印象に従い評価する。読みやすさやメッセージの明確性、全体の流れや文章力、教養・見識が表れているなどを評価要素とする。

【2】採点基準

出題意図

新車の開発をめぐって、環境重視の未来型自動車か安全と性能重視の従来型自動車のいずれを採用すべきか、という問題である。本問では、文中に未来型・従来型それぞれのメリット・デメリットが具体的に示されている。

解答に当たっては、まず自らの選択する立場（結論）を明らかにして、問題文中にちりばめられた論点を抽出し、自分の立場を説得的に論じることが求められる。新車の開発方針を決定するという思想信条に関係しないテーマであるが、営利企業の方針決定のための意見書であるため、企業としてのメリットを追求するものでなければならないという制約がある。

自動車の構造をめぐる知識や環境問題、ソーラーパワーの知識などは、一般常識の範囲内であれば意見書を組み立てる上で有用である。ただし工学的な専門知識を問う問題ではないので、専門知識の羅列に終始している答案は評価しない。

採点（100点満点）

結論の明示…… **10点**

環境重視の未来型か安全と性能重視の従来型か、結論が明示されていることが必要である。結論が明示されない場合、下記の項目でも不利となる。

論点への言及 …… **20点**

問題文に示された論点を抽出して指摘し、それぞれ適切に説明されていること。問題文では、以下のような論点が示されている。そのすべてに言及している必要はもちろんないが、少なくとも性能面、コスト面、デザイン面、企業イメージ、売上げに与える影響、そして低公害または安全性のコンセプト自体の利点にはそれぞれ言及している必要がある。論点が６つあれば満点、５つあれば18点、４つあれば15点という機械的な評価を一応するが、言葉として挙げられていても論旨と結びついていないのであれば、低い評価になる。なお、独創性ある論点の提示は評価の対象となるが、独自の論点にこだわって触れるべき論点をないがしろにしている答案は、評価が低くなる。

〈未来型自動車自体のメリット〉

低公害ソーラーパワー

将来的にはコストダウンも可能

〈未来型自動車自体のデメリット〉

デザインはセダンに限られる

スピードは時速120キロがほぼ最高という限界

生産価格は従来型に対して30%ほどコスト増

販売価格も従来型に対して30%ほど高くなる

〈従来型自動車自体のメリット〉

安全性は飛躍的に向上

デザインはスポーツカーのフォルム

コストが高くない

販売価格が安くなる

〈従来型自動車自体のデメリット〉

環境に対する配慮が低い

〈消費者が車の購入に当たって考慮するポイント〉

価　格 …… 95%

低公害 …… 80%超

安全性 …… 80%超

走行能力（スピード・トルクなど）…… 60%

デザイン …… 60%

〈シェア〉

低公害車は２～３％

スポーツカーは10%

〈デザイン嗜好調査〉

スポーツカータイプ …… 30%

RVタイプ …… 30%

セダンタイプ …… 10%

〈シェア〉

セダンタイプ …… 50%前後

スポーツカータイプ …… 10%程度

〈その他〉

安全性向上キャンペーンによる20%の売り上げ増の実績がある

低公害車が販売台数に占める割合が企業イメージ向上と売り上げアップにつながる

	未来型車	従来型車
生産価格		○
消費動向調査		
価　格		○（95%）
低公害	○（80%超）	
安全性		○（80%超）
走行能力		○（60%）
デザイン		○（60%）
デザイン嗜好		
スポーツタイプ	△（10%）	○（30%）
実際のシェア		
セダンタイプ	○（50%）	△（10%）
低公害車	△（2～3%）	
企業イメージ	○	

未来型と従来型の比較（○は優位）

各論点への言及と結論との整合性 …… 40点

自己の取り上げた各論点について、選択した結論と整合するように評価がなされ、結論と矛盾する論点については適切な反論がなされていること。表現力を見る上で核となる項目であり、提示された論点と結論とが有機的に結びついているかといった論理展開を見ていく。例えば税制優遇措置を論点として取り上げるのであれば、その優遇措置が近々法律で制定されて購入動向に影響を与えるなど、自己の結論に有機的に結びついた展開が示されていれば高い評価を与える。結論と論点が整合的に結びついていることは、同時に説得力の源でもあるので、下記の説得力の評価にも関連してくる。

問題提起から結論までの論理展開 …… 10点

一般的な４部構成では、問題提起→結論支持のための論拠説明→反対論拠とその批判→結論ということになる。開発チームのレポートであれば、ほとんどの場合、結論を冒頭に示して、以後に結論支持のための論拠説明→反対論拠とその批判という構成になるであろう。その他の構成でもよいが、論理的な展開が示されていることが必要である。

論点やデータを無目的に羅列しているものは評価が低くなる。

説得力 …… 20点

結論への説得力を総合的に見て、採点者の受けた全体的な印象に従い評価する。読みやすさやメッセージの明確性、全体の流れや文章力、教養・見識が表れているなどを評価要素とする。